



札幌地区  
宣司評  
だより

TO

と

MO

も

NI

に

第34号

発行日：2009年7月6日

●発行責任者：札幌地区長 勝谷 太治 ●発行所：札幌地区宣教司牧評議会／札幌市中央区北1条東6丁目

## 第1回評議会が開催されました 5月24日 山鼻教会

### 2009年度 札幌地区宣教司牧評議会活動方針

2008年度後半には、札幌地区宣司評にとって大きな二つの出来事があった。一つ目は地区長の交代であり、1996年以来13年間にわたって地区長であった近藤光彦師が退任され、新地区長に勝谷太治師が地主司教により任命されたことである。第二は、ブロックの編成が見直され、改定されたことである。

新地区長は就任に当たり『ともに』の誌上で抱負を述べ、札幌地区宣司評発足当時から十数年間の歩みを振り返り、今後の宣司評の活動にとって留意すべき以下の諸点を提示した。

- (1) 司祭・修道者・信徒が同じテーブルについて地区の宣教司牧について考える。
- (2) 会議の負担を軽くする。
- (3) 縦割りの弊害をなくす。
- (4) 小教区の意見を吸い上げる。

この主旨を受け止め、2009年度の活動方針に生かす。

まず組織の効率運営を図るため、現状の組織の見直しと新しいブロック制を生かした組織を確立する必要がある。ブロック単位での協力関係を強めることによって、従来の小教区の枠組みを乗り越え、3つのブロックに基礎を置いた地区活動へと転換を図っていきたい。

#### 1. 基本方針

- (1) 地区宣司評がより簡素で効率的な組織になっていくために検討を重ねる。
- (2) 小教区・ブロック・地区のそれぞれの役割を踏まえ、有機的な連携を作っていく。つまり小教区が抱える限界や問題についてはブロック内で支え合い、ブロックを越える問題については地区レベルでの取り組みを図る。
- (3) 各委員会・部会についても、構成とその役割を含めて見直す。
- (4) 「要理担当者養成講座」第一期受講者が、学んだことを実際の宣教の場で生かすことができるよう、主任司祭、ブロックのモデラトルと連携を図りつつ実践の場を作る。

#### 2. 課題と活動

- (1) 基本方針(1)と(3)を受けて企画推進会議・事務局・各委員会と部会のメンバー構成を、新しいブロックの活動の実情に合わせて見直し提案する。
- (2) 「要理担当者養成講座」第一期受講者のアフターケアを目的に、8月22日23日に一泊研修を行う。
- (3) 「葬儀における信徒の奉仕者養成講座」終了を受けて、今後ブロック単位での取り組みを支える。またアフターケアを含めて、研修会を企画する。
- (4) 平和旬間実行委員会から提案される企画を踏まえ、地区として行事などへの参加を促す。
- (5) 使徒職大会

本年度の使徒職大会は10月4日（日）藤女子大学講堂で開催する。テーマと内容を評議会で決め、実施詳細については実行委員会に委ねる。

- (6) 新しい試みとして、男女別の一泊研修交流会を設け、小教区、ブロックを越えて互いの声を聞き合い地区の一体化を図り、今後の地区活動の活性化をはかる。（検討中）
- (7) えぞキリシタン殉教370周年記念行事を行う。

188人列福を受けて、北海道の地で殉教された無名の殉教者を偲び、彼らが証した信仰に触れ、学ぶ契機とする。7月18日から20日にかけて行う。

- (8) 一日研修会  
本年度は11月23日（月）北11条教会において開催する。  
テーマ：「共同司牧について、京都教区の歩み」  
講師：京都司教区長 大塚 喜直 司教



## 今後の主なスケジュール

7月9日	企画推進会議	9月13日	第3回評議会（北26条教会）
7月18～20日	えぞキリシタン殉教370周年記念展	9月19日	研修会① 聖書について
7月20日	ミサ（北11条教会）	講師	雨宮慧師（北11条教会）
7月26日	第2回評議会（北11条教会）	9月20～22日	ネットワークミーティング・カトリック青年連絡協議会（岡山県）
7月25～26日	千軒岳巡礼登山慰霊ミサ	9月21日	高齢者部会研修会 講師 藤女子大学学長フローレス師（北26条教会）
8月1日	平和講演 講師 太田一男氏と太田結子氏（北1条教会）	10月4日	第2回侍者会一泊研修会（北26条教会）
8月10～11日	第1回侍者会一泊研修会（支笏湖YH）	10月4日	2009年度札幌地区使徒職大会（藤大学講堂）
8月	カト高夏季キャンプ	10月8日	企画推進会議
8月	全道青年連絡会（教区青少年委員会）	10月10～12日	全道青年の集い（札幌）
8月13日	企画推進会議	10月11～12日	中学生の合宿②
8月15日	平和祈願ミサ、平和行進（北1条教会）	10月18日	市内合同墓参（当番 北1条）
8月22～23日	要理担当者養成講座① ケーススタディ 一泊研修	11月12日	企画推進会議
8月	青年ミサ	11月23日	第4回評議会一日研修（北11条教会）
9月10日	企画推進会議		
9月	教会学校の見学と例会②（岩見沢教会）		
9月13日	JOC 60周年イベント in 札幌（働く人の家）		

※「高校生信仰養成の集い」は隔月で開催予定

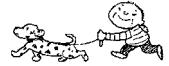
## 「ともに信仰を育てよう」を基本テーマに活動の活性化を図る子供の信仰部会

花川教会 真島勝彦

今年度の子供の信仰部会は「ともに信仰を育てよう」をテーマに教会学校のリーダーたちと、信仰教育・養成のなかで見逃されがちな中学生の信仰教育に焦点をあてて活動をしている。教会学校はカトリック教会のなくてはならない柱であるが、札幌地区だけではなく全国的にも日のあたらぬ部門になってしまっている。しかし、子供の信仰を自立した大人の信仰に育てていくという課題はカトリック教会の世の終わりまで続くテーマであり、単に各教会の子供の親たちの責任ではなく教会全体の責任でもある。子供と大人がともに信仰を育てていくために、ぜひ皆さんのお力添えをお願いしたい。

すでに、中学生の養成については、今年最初の第1回「中学生の集い」が北26条教会を会場に5月9日（土）の10時から3時半まで開かれた。昨年まで信徒中学生の中心だった人たちが高校に進級したこともあり、今回の参加者は2名と少なかったが、「聖書を読もう」を年間のテーマに、今年1年間旧約聖書を中心に大人の信仰に成長していくために必要な学びを重ねていく。10月には1泊2日で藤セミナーハウスでの合宿を企画しており、多くの中学生の参加を望んでいる。





## <青い鳥>

勝谷 神父

ちょうど11年前の4月、一年間のヨーロッパ研修のために日本を後にした私は途中の経由地コペンハーゲンで一泊することになりました。空港の近くの町にホテルを見つけ、そこに到着した時はまだ日が高く、しばらく街を散策したのです。そしてこの時の体験は私にとって素敵な忘れられない思い出となりました。

美しい夕日を受けながらカヤックを埠頭に引き上げる青年。このカヤック青年から始まり、後ろからやって来て私を追い抜いて行った自転車おじさん、前から来た手をつないだ夫婦などなど、すれ違う人すべてがやさしく微笑んで挨拶をしてくれる。見ず知らずの異邦人に対してこんなに温かく街が受け入れてくれる。素敵な驚きの体験でした。町並みも色彩や形の統一が取れていて美しく、観光客など来ないと思われる小さな街ですが、ごみひとつ落ちていません。住む人々の心の豊かさが伝わってくるようでこんな街に住んでみたい、是非今度は通りがかりではなくゆっくりと滞在してみたい、そう思ったのです。

こんな体験を日本でもできないものかと思いつつも期待すること事態無駄なことに思えて、そんな美しい思い出の光景も心のアルバムに閉じ込まれたままその後開かれることがありませんでした。そんな思い出の扉が開かれたのは最近のことです。まさに、同様の体験を今住んでいるこの街でしたのです。

昨年、健康のためのウォーキングを続けるための助けにと犬を飼い始めました。それまではほとんどが車を使っての外出。街並みを散策するなどということはまずありませんでした。それが、毎日探検のようにあちこちを歩き回るようになりました。そこで気付いたことは自然の豊かさ。どの地区にも豊かな森が残されており日常の中で森林浴が楽しめます。さらに、街並みの美しさ。特に団地内にはごみはほとんど落ちていません。さらに犬を連れているせいもあるでしょうが、多くの方が笑顔で話しかけてきます。小学生も指導されているのでしょうがすれ違う時に挨拶をしてくれます。それも気持ちのいいものです。そして、犬に触らせてくださいと言ってきて、そこでいろいろな話ができます。犬連れの人だけでなく、散策している人たちの多くが自然に会釈をします。この街に住んで5年以上も経つのに、街の良さを知らずにいました。見知らぬ者同士であっても、行きかう人が自然にあいさつを交わす、遠い日の異国の思い出としてセピア色になりかけていた体験が色鮮やかに現実のものとして蘇ってきたのです。まるで「青い鳥」の物語のようです。

心の持ち方と自分を変えようとする少しの勇気だけで私たちの生活の意味は大きく変わります。机上で理屈をこねて無いものを嘆くよりも、生活の現場をよく見れば気づいていない素敵なことがたくさんあるのかもしれない。そこから私たちの未来の方向性も見えてくるかもしれませんね。

## えぞキリシタン殉教370周年記念行事 埋もれた歴史に、いま光を！

### えぞキリシタン展

キリシタン遺品・資料等の展示

7月18日（土）～20日（祝・月）

18日（土） 11：00～17：00

19日（日） 10：00～17：00

20日（祝・月） 11：00～16：00

於：カトリック北11条教会 札幌市東区北11条東2丁目2-25

地下鉄東豊線「北13条東」駅下車徒歩2分

### 殉教者記念ミサ

殉教者の魂を引き継いで

7月20日（祝・月）14：00

於：カトリック北11条教会聖堂

司式：ペトロ地主敏夫司教

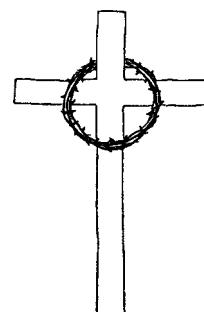
### 第50回 千軒岳巡礼登山・慰霊ミサ

函館地区主催殉教者慰霊ミサに参加

7月26日（日）日帰りコース

於：千軒岳中腹

「金山番所跡野外祭壇」



# 雪の聖母 カトリック江別教会 を紹介します



## 手づくりの教会

江別教会は手づくりの教会です。1955年木内藤三郎様が主任司祭として着任されるや、早速それまでの司教地であった小樽住之江教会の信者、神学生らの応援を得て、教会堂建築に着手、古くからの信者によると大工さんも何人がいたようですが、素人がセメントを練り、ブロックを積み上げ、フローリングを張ったりして汗を流されたとのこと。「聖堂に入ると、そこここに進んで奉仕してくれた方々の手の温もりのを感じる」この教会をこよなく愛し、この教会から天に帰られた石上昭夫神父様のことばです。

わたし達信者も先輩方の遺産を大切に教会において、共同体づくりを大切にしていきたいものです。



手づくりの教会「雪の聖母」  
記念誌 1996年献堂40周年の江別教会

聖堂には木内神父様が彫刻された大きなマリア像があります。【木を見ていると、中でマリア様が「早く出して、ここを削ると表に出られるから」そうおっしゃるんだ】と、側で見ている人に言いながら彫っていたそうです。しかもそのお顔はピリカメノコ。「これが北海道のマリア様だ」という訳です。

聖堂のマリア様の写真（記念誌16ページ）  
木内神父様が彫られた北海道のマリア様



ルルドのマリア様（これも手づくりです）  
高橋幸男神父様、上杉昌弘神父様も土盛をしてくださり、高橋義男さんが心をこめて草花を植えました。

## 歴代の神父様

1932年に岩見沢教会の巡回所となり、たくさんの神父様がたからお導きいただきました。

ヴェンセスラウス・キノルド師、エマヌエル・ゼントグラフ師、ヨゼピオ・ブライトン師、さらにフランススコ修道院から浅井晴雄師、ルドルフ・ケルネル師、教区から瀬野教区長、富沢司教、司教館、小神学校から田村忠義師、浅井正三師、林信夫師、多くの神父様がたに接し、共に食事をした楽しい共同体だったと地主司教様が、江別献堂40周年記念誌で述べられています。

前述のように、木内神父様の時から神父さま常駐の教会となりました。

その後、佐々木羊三師、高橋幸男師、佐々木輝男師、千徳康雄師、松本武三師の司牧をいただきました。

1991年からは、神父様がたの兼任体制から常駐は困難となりましたが、場崎洋師、石上昭夫師、場崎洋師、加藤鐵男師、森田健児師が私たちをしっかりと導いてくださっています。

常駐していただけなくなるという話が出た頃、私たちは少々慌てていました。

「巡回所に戻ってしまうのではないか」しかし、このことが契機となって、わたし達信者としての自覚が高まってきました。日曜日に教会に行ってミサに与るだけでいいのか、木内神父様はそういう信者を「日曜信者のブッカレ信者」と戒められていたそうです。

手づくりは教会堂であって、どういう共同体をみんなで作り上げていくのか、今、問われているのではないのでしょうか。



創立当初の江別教会



## この1年間のあゆみ

昨年6月24日から今年の3月まで、加藤神父様と共に入門講座が36回開催され、回を重ねるごとに参加者も増え、求道者の方、大麻の信徒の方も加わり江別で4名、大麻教会は2名の方が受洗されました。また、月の第5の日曜日は大麻、江別の順に合同ミサを行っており、今後も交流を深めていく予定です。神様のみ業が豊かに一人ひとりのうえにありますように。

この1年間以内で神父様が変わられましたが、この小さな共同体に神父様を派遣くださったことに感謝です。神父様とともにこれからも神様のメッセージをいただきながら、ゆっくり歩んでいきたいものです。



# ペトロ岐部と187殉教者との出会い

## 山鼻教会こども会の取り組み

山鼻教会こども会は、殉教者の列福を契機に188名の殉教者一人ひとりに出会う取り組みを行いました。去年の待降節からはじめて5月31日の聖霊降臨の主日に全員との出会いが果たせました。

### ■待降節合宿（12月6日～7日）

子どもたちと188殉教者の最初の出会いは去年の待降節合宿でした。信仰の自由、思想の自由が法の下で認められている現代に、キリスト教徒であるが故に死を選ばざるを得なかった400年近く昔の人々を、子どもたちはどう受けとめるだろうか、とリーダーも少し不安に思いましたが、今回も神様の声はストレートに子どもたちに届いたようです。

待降節合宿のはじめに、長崎の列福式に出席されたシスターテレジタから、とてもわかりやすく当時の信仰生活や殉教、その後7代にも渡って250年もの間、キリスト教が伝えられていった歴史について説明していただきました。また、列福式の様子についても貴重なお話を聞けました。

その後、小学生は京都の殉教者の物語、中学生以上は小倉・大分・熊本の殉教者の物語を読みました。教材は『恵みの風に帆をはって～ペトロ岐部と187殉教者』という本です。

小学生は物語がよくわかるように、いろいろと工夫をして読みました。ひとりずつ、7ページの物語が印刷された冊子をもらいました。そして、お話を聞いたあと、注意深く殉教者の名前に線を引いていきます。誰々かな？何人だったかな？と答え合わせ…。

次に、殉教者の話した言葉をひとつずつ探だし、線を引いていきます。そして、それぞれが心に一番残った言葉を選びました。

お父さんやお母さんと共に、火あぶりになって死んでいった13歳から3歳までの5人の子どもたちの物語、子どもたちにはどのように届いたのでしょうか。

むかしはキリストきょうをしんじたらころされるってびっくりしました。そしたら、ころされるんですね！

（あおき りく 小2）

「わたしは目が見えなくても、いちばん大切なことが見えています」どうしてこのことばが心にのこったかという、目が見えなくても、神さまのことはぜったいしんじていたから、いつどこにいても、マルタの目には神さまが見えているんだな、と思いました。

（木村 友美 小3）



### ■188殉教者と共に歩む

3学期の子ども会では、ペトロ岐部と187名の殉教者の物語を読み進めていきました。毎週、日本各地の殉教者の信仰とその死の物語を聴き、そこに出てきた一人ひとりのカードに色を塗り、名前を書き入れます。おじいさんの殉教者はおじいさんのカード、お侍さんはお侍さんのカード男の子のカードや女の子のカードもあります。また、プログラムの終わりには、殉教者一人ひとりと共に“主の祈り”を唱えます。こうしてできた



# 北1条教会における 特別聖年「司祭年」の取組み

キリストの忠実、司祭の忠実 2009. 6. 19～2010. 6. 19

教皇ベネディクト16世は、生涯の奉仕を通して司牧者の真の模範を示した「アルスの司祭」、聖ヨハネ・マリア・ピアンネ神父（1786～1859）の帰天150年を機会に、「司祭年」を開催すると発表し、この年を司祭の役務がよりよく果たされるための「靈的向上」の機会とするよう願われました。



ピアンネは、南フランスの農家に生まれ、信仰深い両親のもとで育てられた。当時、フランスは革命の混乱期にあり、司祭の不足で満足な信仰教育がなされていなかった。それに心を痛めたピアンネは、司祭になることを決意し、神学校に入った。家が貧しくて教育を受ける機会に恵まれなかったピアンネにとって、勉強についてゆくことは大変なことであったが、苦勞のすえ、1815年に司祭に叙階され、アルスの主任司祭に任命された。

ピアンネの慈愛溢れる教えと良い模範は、不熱心な人びとばかりであった村をキリスト教の精神に満ち溢れる村に変えたのだった。彼の徳の評判は広まり、多くの国から、人びとが祝福やゆるしの秘跡を求めてやってきた。最後の1年間は10万人の巡礼者があったといわれている。

## 北一条教会では「司祭年」にあたり、次の取組みを予定しています。

- 毎週日曜日の朝ミサの前に、司祭のための祈り又は召命を願う祈りを行います。
- 各自が毎日の祈りにあわせ、司祭のための祈り又は召命を願う祈りを行います。  
※これらの祈りのカードをお配りします。（下記参照）
- 神学生が帰省した時期をみて、交流する場をつくります。
- 司祭と信徒の学習会や神父様に感謝する会などの企画を検討します。

### 司祭のための祈り

神よ、あなたによって恵みの分配者となった司祭に、聖靈の息吹を注いでください。

▲あなたのことばにいつも開かれた心、誘惑や試練に負けない心、けんそんに犠牲を行うキリストの心を、司祭のうちに強めてください。司祭が叙階の恵みに答え、あなたと人々のために忠実に仕えることができますように、主キリストによって。アーメン。（教皇パウロ六世の祈りより）

### 教会のために召し出しを願う祈り

いつくしみ深い父よ、

▲あなたの民を顧み、イエス・キリストのために生涯をささげる司祭、修道者の召命をお与えください。聖靈の恵みと力に支えられて、多くの青年があなたの招きに答え、あなたの愛に強められて、兄弟に奉仕する心が与えられますように。主キリストによって。アーメン。

司祭年の始まる「イエスのみ心の祭日」（6月19日（金）18：30）のミサ参加を呼びかけました。

## 編集後記

188殉教者の列福は日本の教会にとって大きな記念になるとともに、多くの人に深い感動と希望を与えました。キリストの体である教会は、どのような迫害や苦しみにあっても生き続け、世に救いの光をもたらしてきました。現代に生きる私たちも、同じキリストの体である教会に集い、同じ聖靈に導かれています。新しい年度を迎え、昨年より少しでも多く捧げることができますように。

(K. N)